

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

すべての高校生に豊かな教育を
『フォイエルバッハ論』(下)
学費値上げの危険と解決の道

6、7面
3面
10、11面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール mins@ydlj.or.jp

資本主義の中心地で「民主的社会主義者」が勝利

支持率1%からの出発

ママダニ氏は、ウガンダ 主義者」(DSA) 会員で生まれ、インド系スリム あり、ニューヨーク州議会の34歳。「米国民的社会的 議員として活動してきまし

た。DSAは米国の政治団体で、公式ウェブサイトに「資本主義は所有階級によって、自らの利益を求めて自分たち以外の者を搾取するために設計された制度」と批判しています。その略の即時恒久的な停戦を

「生活できるニューヨーク」を掲げ、大企業・富裕層への課税で公約実現のため、選挙をたたかったママダニ氏。昨年2月の時点で支持率は1%でした。

「生活できるニューヨーク」を掲げ、大企業・富裕層への課税で公約実現のため、選挙をたたかったママダニ氏。昨年2月の時点で支持率は1%でした。

昨年11月、世界の金融機関が集中する資本主義の中心地、米ニューヨークの市長選で、「民主的社会主義者」を名乗るゾーラン・ママダニ氏が歴史的な勝利を収めました。ママダニ氏の勝利の要因とは、どんな運動が勝利に導いたのでしょうか。(写真はすべて「しんぶん赤旗」ワシントン支局の柴田菜史記者が撮影・提供、塩田悠玄記者)



ママダニNY市長誕生の衝撃

▶ 支持者と対話するママダニ氏(2025年10月30日、ニューヨーク)

ママダニ勝利の三つの要因

どのようにママダニ陣営 持を拡大し、財界からの攻撃は支持率1%から急速に支 撃を乗り越え勝利すること



▶ スマホのライトを一齐につけてママダニ氏のうったえに応える支持者ら(2025年10月26日、ニューヨーク)



▶ バスの無料化など公約を書いたフラカートを掲げる支持者とともに集会をうったえるママダニ氏(2025年10月26日、ニューヨーク)

超す選挙ボランティアが約300万軒を戸別訪問し、450万件の電話をかけ、270万件のテキストメッセージを送りました。これほど多くのボランティアが集まった背景について、島田さんは「政策の魅力に加えて、ママダニ陣営の『向こう(クオモ陣営や超富裕層)はお金を持っていないかもしれないが、われわれには草の根の運動がある。彼らにないのは国民の力による組織だ』との呼びかけが人々を動かした」と指摘しました。

「いま米国では、労働者同士の分断や排外主義的主張が社会のいたるところで深刻化している。トランプ米大統領はそれを解決するどころかむしろ煽るようなことを言っているが、ママダニ氏は『富裕層は時給30ドルの人たちに、時給20ドルの人たちが自分の敵だと思いつまめるようにしてきた。富裕層は、国民自身がお互いに争うことを望んでいる。争わせておけば、国民は長期にわたって破綻してきたシステムをつくり直す仕事の方に目を向けられないから』と演説してきた」と島田さん。分断を乗り越える議論を展開してきたことが、危機感を抱き展望を求める国民に響いたといえます。(2面につづく)